

# 令和元年神田古本まつり（乾）

土屋 博

初日の十月二十五日大雨の爲、翌日二十六日及び二十九日に訪ひ、以下を購入す。本年は外國人客極めて多し。

一「日本外史字引」三重縣貫屬土族野呂公敏編輯

（東京府貫屬土族島次三郎藏版、明治六年刊、三七丁）

古書價格二千圓也。例言に曰く、「近頃家童讀外史。爲抄出數字。參考諸書施傍訓」と。畫數別に漢字を列擧し、最後は二十八畫の蠶（さん、かひこ）、鬪（きう、くち）。二十七畫は驢（くわん、よろこぶ）、驥（しやう、をどりあがる）。

二「日本外史譯語 全三冊」西野古海編輯

（東京書林文江堂梓、明治十一年發兌、八〇一九〇一九二丁）

古書價格千五百圓也。西野古海は、昨年古本まつりの收穫品「和漢日用作文捷徑」（東京文江堂、明治八年發兌）の著者なり。

三「日本外史字引大全」（全四冊）大阪府平民岩井真二郎編輯

（三書堂藏、明治十二年刊、八〇七九七五四七五五丁）

古書價格二千圓也。小生、此れまで一、二巻のみ端本にて所有せし處、今回は全四巻揃ひにて状態も極めて良し。「字引」の名稱なれど、畫數別の漢字字典にはあらで、日本外史の文章の順による字句解説集なり。緒言に曰く、「此書は本書中の熟字を摘抄して順次に國訓俗譯を施し聊か先輩の義解を引用して其の下に注す」と。

四「評本 正文章軌範」頼山陽先生講義、牧百峰先生筆記

（大阪田中宋榮堂梓、明治二十七年訂正版）

古書價格千五百圓也。小心文のうち、諸葛孔明「出師表」につき頼山陽曰く、「公之行文、如其軍」と。

五「處世訓」大町桂月著

（博文館、明治三十六年刊、二四九頁、定價金貳拾五錢）

古書價格三百圓也。序より、「敗軍の將、兵を談ずべからずとは聞けど、戰に勝ちたるものゝみが兵を談ずべき道理もなきが如し。余やむしろ處世上失敗したる老書生也。學あるにもあらねば、識あるにもあらず。これといふ事業をなしたることもなければ、德行あるにもあらず。言はゞ道を説くの資格なきもの也」と。けだし名文也。

六「譯註 先哲叢談」文學士藤田篤譯

(金港堂書籍、明治四十四年刊、定價金壹圓、三九七頁十四一八頁)

古書價格三千圓也。先哲叢談は江戸時代の儒者の略歴集にて、明治大正期の學校にては教科書として廣く採用せられたるものなれば、既に數種類のテキストを所有せり。今回の書籍は、原善公道著の前篇のみならず、東條耕子藏著の後篇をも収録し、持ち歩きにも便利なる美しき體裁なれば、やや値段高けれど購入す。

七「選註 蘇東坡詩集」頼山陽選評、井上靈山註解

(崇文館、明治四十四年刊、定價七拾五錢、二六六頁)

古書價格二百圓也。二度目の購入。

八「漢文解釋法 全」塚本哲三著

(有朋堂、大正十四年九十八版、正價金壹圓五拾錢、五三五頁)

古書價格八千圓也。初版は大正六年とあり、當時としては大ベストセラー。塚本哲三は、明治十四年静岡生れ、濱松中學に學び、中東教員國語漢文科檢定試験に合格。立教中學教諭等を歴任、昭和二十八年歿。有朋堂文庫シリーズの校定者として名高し。

目次は總說篇、解釋篇の二つと附録(字音假名遣、語句索引)より成る。解釋篇は、最も重要にして且つ最も人口に膾炙し自然教科書にも多く掲載せられ試験問題としても多く出る書冊十種より三百三十題を選び、最初に白文、次に詳解精說せり。内譯は、日本外史(三七)、小學(二〇)、十八史略(三七)、文章軌範(九)、續文章軌範(二四)、唐宋八大家文(二二九)、大學(三)、中庸(六)、論語(八)、孟子(五六)なり。

當時の價值觀を數量的に理解することを得べし。



九「中島廣足・橘千蔭 文集新講」大塚龍夫著

(創生社書店、大正十四年刊、定價金壹圓參拾錢、本文一六八頁)

古書價格三百圓也。著者は東京高等學校教授。本書には「熊本縣尙綱高等女學校」の藏書印有り。熊本出身の中島廣足(ひろたり)(一七九二年生、一八六四年歿)の「檀園文集」及び江戸出身の橘千蔭(ちきかげ)(一七三五年生、一八〇八年歿)の「朶が花」を収録す。後者には「大宰府の長官の邸で下役人共を集めて梅花の宴

を開かれたのを古い先例として、その後世々この梅の花を賞愛して来た」との記載あり。

(令和元年十一月十八日受附)